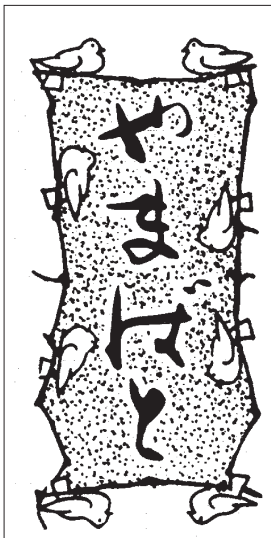


発　行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市坂部2151番地2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/
郵便振替　00800－6－14641
頒価年額600円(〒共) 1部100円(〒共)
(送料・消費税込み)
寄付金の一部に購読料を含む場合があります。

老後の共同生活について

（一）

二〇二一年度の新年度全体職員研修が、五月初め、オンラインで行われました。紙面の都合上、既にお伝えしたことや詳細は割愛させていただき、その研修でのグループディスカッションにおいて出された職員たちからの思い、「今後取り組みたいこと」「こんなものがあったらよいなあ」等に関し、その後の経過をお伝えします。

実は、提案内容に関しては、法人全体に関わるものもあれば、各事業所が決めていけばよいものもあったので、後者については各事業所の長が中心になって検討し、前者については理事長を中心に進めていくことにしたのでした。

その結果、既に具体化できたものもあれば、先延ばしになったものもあり、また、実現を目指して検討し始めたものもあります。

既に実現したものとしては、「資格取得しやすい職場環境」や、「PT（理学療法士）による現場支援の場を増やす」といったことです。

検討し始めたものとしては三つあり、①送迎サービス拡大のための施設連携、②職員のための託児所、③手軽な価格で入居できる高齢者施設となっています。

①が提案された背景には、当法人の施設は、牧之原市、島田市、吉田町に散在し、そこに至る交通の便が悪いので、施設間の連携によって改善しよう、又、可能ならば、地域の方たちのためにも役立てようという願いがあります。

②は、やまばと創立期には乳児を預かる場があり、職員（母親）は仕事の合間に授乳できたという歴史があるので、改めてニーズを探り、対応することにしたわけです。

③に関しては、かなり前から言われてきたことでしたが、近年、要望が顕在化したと言えます。これから、「どんな軽費老人ホームが望ましいか」話し合っていく予定ですが、たまたま、浜松にあるケアハウス『アドナイ館』（社会福祉法人・十字の園が経営）の機関紙に、私の思いなどを簡単に記したので、先ずはそれをご紹介することにしましょう。（一部加筆修正）

～～×～～×～～

牧ノ原やまばと学園には、様々の施設がありますが、「アドナイ館」のような、お元気な高齢者のためのホームはありません。「なぜつくらないの？」と言われますし、時には、「理事長は、老後どこへ行くつもりですか？」と質問されたりもします。それで、当法人でも今後検討しようということになったのですが、私の老後の選択肢の一つには「アドナイ館」も入っています。理由としては、「礼拝がある」こと。また、「自由な生活をしながら、適度に支援を受けられる」ことなどが挙げられます。

「礼拝」は、愛の乏しい自分をお詫びし、ともに歩んで下さる神に感謝し、新しい希望や力を頂く恵みの場だと思うので、私にとってはとても大切なものです。

そして、「自由に、自分らしい生き方ができる」ことも魅力的です。例えば、アドナイ館から聖隷クリストファー大学に通い、卒業後は日本キリスト教社会事業同盟事務局のお手伝いをされた斎藤さんなど、良いお手本だと思います。

私の手元には一九九三年九月発行のアドナイ刊・創刊号がありますが、それによると、軽費老人ホーム設置計画書を三十年前に浜松

市へ提出したが、当時は特別養護老人ホームの建設が優先され、計画は実現しなかったとあります。（「十字の園」の綿鍋義典理事長記）。

しかし、「低廉な価格」、「制約のない自由な生活」、「適切な援助という安心の中での自立生活」、また、「地域社会に広く開かれた施設」という夢は、その後も長く継承され、三十年後、「私たちが理想として描いてきた施設をここに実現でき、心より感謝」という、理事長の喜びの挨拶になったのでした。

あれからさらに二十八年、お元気だった住人の方たちもケアを必要とする状況になり、ケアハウスの性質もニーズに応えて介護サービスをつける等、変化が見られますが、御心（みこころ）に適って誕生した「アドナイ館」が、今後も、神様の愛を現わすホームとして、希望の光を灯し続けていかれるよう、心よりお祈り致します。

～～×～～×～～

（二）

私の手元には、軽費老人ホームや有料老人ホームに関する資料がたくさんありますが、魅力を感じるホームは、入居者の自由が確保されている所、また、高齢者がいろいろな活動、例えば、子どもたちに歌を教えるとか、英語を教えるとか、ボランティア活動できるとか、農園で野菜を育てたり、動物を飼育できるとか、進学できるとか、通勤できるとか、社会とつながりながら、自分らしく活動できる、そういったホームです。

しかし、老人ホームは多くの仲間とともに暮らす場所でもありますから、自由であるとともに、周りの人を思いやり、気持よく過ごせる場であることも大切でしょう。

「自由でありながら、大家族のような絆に結ばれている」、そういうホームが理想かもしれません。

私はふと、自分が中学三年から高校卒業時迄過ごした「学生ホーム」を思い出しました。高齢者ホームではありませんが、自由と暖かさにあふれた共同生活でした。

このホームは、「日本基督教矯風会・高知支部」が開設した寮で、実質的な責任者は横川豊野先生。その理念は、「地方より進学の為、家庭を離れて勉学する『中学・高校生男女』を対象に、家庭的雰囲気の中で、キリスト教精神に基いて、心身の成長を図る」でした。

私が体験した寮生活は、「朝夕の食事の配膳は当番制。毎日夕食後は聖書を皆で輪読し、週に一回は牧師から説教を聴く。外国人宣教師によるバイブルクラスへの参加は自由。時々、社会で活躍している先輩（卒業生）の話や、著名な活動家たちの話を聴く」でした。

何となく堅苦しい印象を受けるかも知れませんが、事実は正反対で、少年少女たちは、のびのびと明るく過ごしていました。

「僕の一日の食事は、①寮での朝食②学校での朝弁③学校での昼飯④寮での夕食⑤夜中の外食、計、何と一日5回でした」という思い出を書いた人もいます。寮には、勉学に励む者もいれば、勉強より映画や音楽や異性に関心がある人もいましたが、優劣の差がつけられることはなく、いじめなどのトラブルもなく、みな、大家族の一員のような気持で、自分らしく暮らしていたと思います。

「教会へ行きなさい」と言われたこともありませんが、毎日ふれる聖句や祈りは、寮生たちに浸透し、私の場合、信仰となり、人生を支える基盤になったのでした。

学生ホーム出身者たちは、今も年齢の差を超えて親しい交流をもち続けていますが、こういう大家族のような寮生活を実現させた力は、何と言っても、自ら寮に住み込み、中・高生と共に暮らし、大勢の若者の弁当作りや、夜の部屋の巡回など、母親代わりになって、若者を見守り育て続けた横川豊野先生の存在が大きいでしょう。先生は、低所得者のための無料診療所の実現や、重大事件の思想犯の保護司、逃げてきた売春婦の更生、未亡人のための自立支援等、スケールの大きい社会運動・婦人運動に関わった方のようなのですが、寮生たちは、「偉い人らしい」と聞いてはいたものの、そんな事には無頓着。委縮することもなく、笑顔の先生に癒されていたのでした。

「自由」であること、また、大家族としての絆を感じること、絆を生み出す神の愛があること、そういうものが、老後の共同生活にも大事だろうと思わされています。

〈理事長〉長沢道子

海外で体験してきた隣人愛

ウィリアムズ郁子

私は東京生まれですが、父親の仕事で十代後半の5年間をカリフォルニアで過ごしました。しばらく言葉が話せず、自分が無用・無益に思えてしまうような毎日でした。そんな中で、教会のクワイヤ（合唱隊）の練習に行くと、毎回暖かく私を迎え、「笑顔で歌うともっと良いよ」と声をかけ励まし続けてくれた先生がいました。私を一人の「隣人」として見てくれた人がいたことを今でも有難く覚えています。

後に日本で大学を卒業した後、私は英国人と結婚し、英国に住むこととなりました。引っ越しの当日は、折しも 昭和天皇の亡くなった日でもありました。先の戦争で日本国の最高責任者であった天皇の訃報で、英国ではそれからの一週間ほど連日テレビや新聞で、東南アジアで日本軍と捕虜となった多くの英国人が、何十年経った後も悪夢にうなされ、日本人に対しての怒りと憎悪を抱えて生きている事を訴えていました。彼らの証言を聞けば聞くほど、その怒りは当然と思えました。自分の国がそこまで非人道的な行為を当然のように行っていたことを全く知らないまま、彼の国に来た自分を恥ずかしく思いました。彼らに済まないと思うものの、どう謝罪したら良いかもわからない中で、私の英国生活は始まりました。

そして十年後。私はロンドンで英国人元捕虜と日本人が共に集まる礼拝に出ることができました。捕虜犠牲者を追悼し、そして和解のために祈る礼拝でした。私は「加害者側」という意識で、重い気持ちで参加しましたが、その場で日本人牧師が日本人を代表して懺悔の祈りを祈って下さいました。その祈りに自分も加われたことは大きな救いでした。神の罪の赦しを自分の事として知った感謝の思いで、涙が止まりませんでした。

その礼拝では最後に、参加者同士で平和の印として握手をすることになっていましたが、私は英国人元捕虜の人たちに握手を求めることには躊躇しました。ところが、あちらから、握手を求めてこられました。私たち日本人を愛すべき「隣人」として握手の手を差し伸べてくれたのです。私にとって、これは人生において最も大きな出来事だったと今でも思っています。

その後、私は英国国教会の牧師となり、私たちの住んでいた街リーズの大学病院のチャプレン（病院付きの牧師）として働き始めました。病院では、宗教に関係なく患者さんに寄り添い、出会わされたお一人お一人の気持ちに向き合い大切に過ごす時間が日々与えられました。

或るクリスマス・イブの晩、一人のご高齢の患者さんを訪ねました。一人家に残されている奥様のことなどのお話を聞きました。そして共に祈り、その夜の静けさの中で、聖餐式のパンとぶどう酒を分かち合いました。チャプレンとして患者さんと共に過ごす時間というのは、互いに「隣人」として共にあるということを実感させられる大変光栄な時間です。そのような恵みに感謝しながら、その晩も病棟を後にしました。

ところが、数日後、同僚のチャプレンがその病棟を訪ねると、驚くべきことが知らされました。実は、この患者さんは、ビルマ戦線で日本軍の残虐行為を体験し、それ以来心痛のため、日本人とは一切会わない、日本製の製品も絶対に触れないという主義で生きてきたそうなのです。「ところが、クリスマス・イブに話を聞いて祈ってくれて、聖餐のパンとぶどう酒を共にしたチャプレンは、日本人だった。それがわかって、それまでずっと胸の奥を締め付けていた苦痛と憎悪は一瞬にして消えてしまったことに驚き心から感謝している。」との事でした。

あの晩、私はただその方の「隣人」としてそこで寄り添うことが許され、その方の思いに耳を傾けようとした、それだけでした。それでも、その「隣人」として共有した時と場を、神様は祝福してくださり、「赦し」と「癒し」と「和解」というプレゼントを下さったのだと知りました。

やはり、どのような場にあっても、私たちには、出会わされる「隣人」に寄り添い、心や体の痛みを思いやることが、何よりも大切なのではないでしょうか。やまばと学園の各事業・施設では、そのことを、当然のこととして皆さんはくる日もくる日も重ねてこられたのだと思います。貴重な「隣人愛」を地道に実践されている皆さんの上に神様からの豊かな恵みをお祈りします。

真菜での趣味活動
～珈琲豆の焙煎始めました～

デイサービスセンター真菜　吉田陽子

真菜の裕次郎こと、ご利用者の石原勇次さん。平成二十七年六月に脳出血をおこし、左片麻痺となりましたが、今はデイケアでリハビリに励みながら、真菜では、趣味活動に意欲的に取り組まれています。

若い頃、喫茶店のアルバイトで珈琲を淹れていたそうですが、真菜で珈琲を淹れ始めたきっかけは「美味しい珈琲が飲みたいね!!」の職員の一言からでした。

最初は挽き豆を珈琲メーカーで淹れていましたが、石原さんオリジナルのブレンドがとてもおいしくて好評だったので、いろんな種類の豆を職員が用意してくれるようになりました。

不自由ながらも車椅子に座る太ももにミルを挟み、器用に片手で豆を挽き、以前使用していたネルのフィルター（使い易いように加工したもの）をご自分で用意され、お湯の温度や挽き具合、ブレンド具合を研究しながら淹れてくれます。

数年前には真菜で「カフェ石原」をオープンさせ、ケアマネさんをご招待。牧之原市の介護者の集いでは、参加者に珈琲を淹れてもらうなど、ボランティアとしてご活躍。その成果から更に熱意と意欲が向上し、今年に入ってからは生豆から焙煎をはじめています。

道具はフライパンとカセットコンロ。豆の種類別に深煎りや浅煎り、時間や温度、タイミングを計りながら焙煎しています。YouTubeを見てプロの焙煎技術を研究したり、メールでプロの意見を聞いたりと、常に前向きの姿勢にはとても頭が下がります。

「真菜ではやりたい事が自由にできて楽しい。また、喜んでくれる誰かのためになることもとても嬉しい」と、いつも仰ってくれます。

最近は珈琲ゼリーにも挑戦中。これがまた絶品です。わたしたちも感謝、感謝です。

（施設長）

念願の屋根付き渡り廊下

ケアセンターかたくりの花　加藤智子

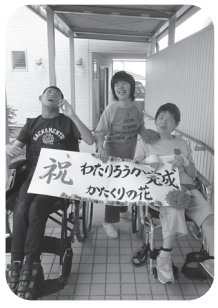
かたくりの花には本館とは別に二階建ての作業棟があります。

二〇一〇年四月に完成したこの作業棟を私たちは「風棟」と呼び、本館を「空棟」と呼んでいますが、この風棟は、偶然にも、呼び名の通り風の強い日などには強風が建物の間を吹き抜けていきます。

風棟（作業棟）では、三名の男性ご利用者が日中活動をしています。

本館での朝の会が終わると、三名は作業棟へ移り、昼には本館の職員が昼食を籠に入れて、作業棟へ運びます。また、カラオケや行事の際は、本館で一緒に活動するので、風棟の人たちは職員も含めて一緒に本館へ移ってきます。

職員もご利用者も何度も行ったり来たりするのですが、それにもかかわらず、作業棟への移動は、食堂の裏口を出て、ぐるりと駐車場を通って約五〇mの屋根のない砂利道を歩いていかねばなりませんでした。



土砂降りの日に荷物を持って、何度も往復するのは、職員はもちろん、ご利用者にとっても長年の負担でした。作業棟への連絡通路は、「かたくり」のみんなが待ち望んだものでした。

その念願の「屋根付き渡り廊下」が遂に、二〇二一年五月十七日に完成しました。「渡り初め式」では、作業棟を利用している男性ご利用者さん三名が、代表でテープカットを行い、みんなで順番に屋根の下で記念写真を撮りました。

先日、土砂降りの日に昼食を入れた籠を持って屋根付き廊下を移動した時、これまでの苦労を思い、しみじみと完成の喜びをかみしめました。

三名の男性ご利用者さんもこれから毎日、何往復移動しても楽しく日中活動に参加できることでしょう。

（生活支援員）

笑顔がいっぱいの園芸教室

ワークセンターコスモス　森山規子

就労継続支援B型であるワークセンターコスモスでは、お花や観葉植物の肥料などを取り扱っている会社からお仕事を頂き、そのご縁で、コスモスの中庭も、以前は何もなかったのですが、今では綺麗なお花がたくさん見られるようになりました。

職員がお花を植えていた時、利用者さんから「自分たちもお花を植えてみたいよ」との声があがり、それをきっかけに「鉢の寄せ植え」を行事としてとりいれることになりました。

今年の六月で三回目となります。六種類のお花が用意され色の種類もたくさんあり、一種類ずつ自分の好きな色を選んでいく際は、ご利用者は、一種類のお花の前で座り込み、何色を選ぼうかとジーッと見つめて悩んでいます。そして、「この色!!」とインスピレーションがひらめくと、パッと選ぶのです。

普段の作業時では見られないご利用者の様子をわたしたちは見ることができます。取引先の会社から来て下さる講師の方も、利用者さんの顔や特徴を覚えてくれていて、声を掛けたり優しい対応をしてくれます。

選んだお花をポットから取り出し、高さやお花の大きさなどバランスを考えて鉢に植えていきます。

「取り出すときは茎下部分を持つように」と説明されていましたが、ある時、女性ご利用者さんが、お花を鷲掴みにしてポットからお花を取り出しました。茎に付いた土の重みで、お花が取れてしまう!と心配する職員をよそに、「見て見てー」と満面の笑顔。その笑顔を見ると、こちらも注意するのを忘れ、ほっこりとした気持ちになります。

これからも、利用者さんの何気ない言葉を聞き逃さないよう努めていきたいと思います。

（生活支援員）

お茶摘み＆新茶の天ぷら体験

ケアセンターさざんか　大須賀千佐美

「お茶摘みいけるかやぁ」と今年もご利用者のMさんから声がかかりました。数年前から、元スタッフのNさんのお宅の茶畑で新茶摘みの体験をさせていただいており、みなさんが楽しみにされている行事の一つです。

当日は快晴に恵まれお茶摘み日和。昨年から外出ができていないため、ワクワクし、ジュースとお菓子を持って遠足気分で出かけました。茶畑に到着すると、Nさんがお出迎え。

まずは見た目からということで、手ぬぐいを頭にかぶり茶娘（茶旦那?）になりきり、お茶摘みスタートです。新芽2つ3つの所で摘み取るよう教わりましたが、豪快に手づかみで摘む方もちらほら。また、慣れた手つきで摘む方、「手伝ってやる!」と張り切って摘んでくれる方、お茶つみよりもNさんに夢中の方々などなど、様々でしたが、みんなでゆったりとした時間を過ごすことができました。

午後は、摘んだ新茶を天ぷらにしました。摘むのも楽しみですが、やっぱり食べることが一番。実は私は、さざんかに来て初めて新茶の天ぷらを食べる機会があり、その美味しさに感激したのでした。

今回の天ぷら作業は、女性ご利用者に手伝っていただきました。お茶の天ぷらは一瞬で揚がるので焦げないように気をつけます。揚げあがった天ぷらは、ご利用者とスタッフ皆でたくさんいただきました。大喜びでした。

今回、四季を感じる貴重な体験ができ、Nさんには感謝です。コロナ禍で我慢することの多い日々ですが、できないことを嘆くのではなく、できることを見つけて、これからも楽しい時間を共有していけたらと思います。

（生活支援員）

歩みのあと

（7月1日～8月31日）

〈法人〉長澤理事長が聖隷クリストファー大学で講義。（7／12）／小山社労士による「最近の労基法改定の内容や、最新の動き等についての学び」（7／13・zoom）管理者と主任たちの意義と目的。～よきスーパーバイザーとなるために～」講師は日本女子大学久田則夫教授（7／19・zoom）／あつまリーナ運営委員会に、長澤理事長、河本施設長、関根事務長出席。（7／30）SV研修②主任等対象「利用者処遇に関した事例検討」講師は東洋大学吉浦輪教授（8／6・25・zoom）（仮称）さざんか・真菜建設入札で、大河原建設様落札。（8／24）／第一次補正ヒアリング。（8／30～9／3・zoom）

《垂穂寮》「コロナ発症初動訓練」、感染症対策委員会と看護部門とが主体になり実施。（7／16）／ワクチン2回目接種完了。（8／5・19）／毎日のように職員によるピアノやギターの音色がホールに響く。

《みぎわ》誕生会。（7／10）／利用者中心のミーティング。様々な意見が出された。（7／18・8／29）／施設の外壁屋根改修工事を開始。（8／27）

《野ばら》新規利用開始。（7／8）／ワクチン接種1回目。（7／15・7／22）／レクダンスを約1年振りに再開。（7／20）／高校1年生職場体験。（8／2～4）／親子での施設見学者あり。（8／12）

《やまばと希望寮》合併処理槽に亀裂が入り応急措置。（7／2）／利用者ワクチン2回完了。（7／29）／職員接種完了。（8／18）／納涼祭は感染予防の為中止。／訪問歯科治療のため、ライン歯科の渡部先生来寮。

《わかば・もくれん》利用者ワクチン2回目接種完了。（7／29）／職員接種完了。（8／18）／女性1名グレイスへ移行（8／5）、女性1名聖ルカへ移行（8／12）。／経年劣化でエアコン交換。（8／23）

《さざんか》国庫補助事業の内示。（6／30）実施設計審査。（7／1）／地震想定訓練。（7／23）／第3回資格委員会。（7／28）／会議内研修『アロマテラピー』。支援センター石神職員が講師。（8／6）

《カサブランカ》新規利用開始。（7／12）／ワクチン接種1回目。（7／15・7／29）／8月中に接種2回目ほぼ完了。

《希望の家・ふれあい》職員1名採用。（7／1）㋐「島田市まちづくり」から委託された家山・天王山の草刈り。お疲れ様です。（7／22）／㋐ボランティアが折った飾りと短冊に願いを込めて、飾り付け。（8／6）／㊟緊急事態宣言下、プチ夏祭り。（8／27）

《なのはな》横井町クリーン作戦でゴミ拾い。（7／21）／備蓄用ビスケットで手軽なおやつ作り。（7／30）／防災訓練や新聞紙スリッパ作り。（8／13）／タイルを使ったアート製作活動。（8／27）

《あさがお》青野先生による風船を使ったリフレッシュ体操。（7／13）／静岡空港のフードコートで昼食、お土産はビンゴでゲット。（7／20）／土曜半日営業日。「あさがおしまトレ」実施。初倉包括支援センター協力で体操教室。（8／21・28）

《WoCやまばと》パン事業の今後を考える勉強会。経費削減について検討。／地域のイベント（カタハマラボ）に参加、対面販売を実施。

《コスモス》外部講師による感染予防講習。手洗い等、真剣に参加。（7／21）／勤続30年のSさんが7月末で契約終了の為、壮行会。お母様も出席。感謝の言葉を伝える。（7／29）／職員ワクチン接種完了。（8／19）

《かたくりの花》夏のお楽しみ会。盆踊りの炭坑節等楽しむ。（7／16）／スイカ割り。地域のおじいさんが今年も大きなスイカを作ってくださる。（8／12）

《さくら》七夕飾り。プロレス観にいきたい等々の願い。（7／7）／感染症の疑いで、あつまリーナ全館閉館。（8／2、陰性確認8／3再開）／あつまリーナ合同夏祭り。午後は作業行う。（8／12）／東京二〇二〇パラリンピック聖火フェスティバル「静岡県の聖火」ランタンを、聖火ビジットとしてホール展示。（8／17）

〈マーガレット〉短冊の願いを読み上げて笹の葉に飾る。電車に乗れますように等々。（7／7）／誕生会。「陣地取りゲーム」など楽しむ。（8／26）

〈レタスクラブ〉わかふじスポーツ大会卓球参加予定の利用者2名、練習に励む。（7／6、20、27）／合同夏祭り。金魚すくい等を任され張り切る。（8／12）／かき氷の「磯善」へ。一緒に食べ、笑顔。（8／17）

〈生活支援センターやまばと〉島田市自立支援協議会に参加（7／28）

〈聖ルカホーム〉職員ワクチン接種後、アナフィラキシーで一泊入院。

《グレイス》救命救急講習。感染対策を徹底して実施。第2回は蔓延防により中止。（7／22）／栄養士が毎週、各ユニットでかき氷を提供、夏を感じるひと時。

《相寿園》納涼祭。カラオケで「お富さん」等13曲を熱唱。（7／22）／毎週月水金が、お風呂の日。説得されて久しぶりの人も。大きな湯船につかると、皆さんいい顔に。

《ぎんもくせい》夜間の地震・火事想定防災訓練。（7／6）／夕涼み会。（8／19）／ナースコール更新打合せ（8／3）

《真菜》土砂災害警戒情報が発令され、営業中止。（7／2）／手芸クラブ。ガーベラなど素敵にアレンジ。（7／8）／ふれあい書道展出品。特選など受賞。／夏祭りのど自慢大会。90歳の同級生同士が浴衣を着て、お互いを労い合う。（8／11）／リスクマネジメント合同研修。車椅子体験で介助者の声かけなどの大切さを学ぶ。（8／12）

〈すずらん〉七夕ロード。ホールや廊下が賑やかに。健康に過ごせますようにと願う短冊多し。（7／6）／リスクマネジメント合同研修。（8／12）

〈さふらん〉静岡県ホームヘルパー連絡協議会。第2回一般研修会（動画配信）。／予防着着用による訪問について、案じるご意見あり。（8／21）

〈シャローム〉居宅サービス計画書標準様式及び記載要領の改正があり、順次新様式に切り替え使っていくことに。

《オリーブ》啓発場所支援新規立ち上げ。（7／5）／まん延防止等重点措置区域適用され、事業所から、対応方針が届く。／ぶどうの木へ事業所支援訪問。（8／17）

〈ぶどうの木〉七夕短冊飾り、夏の星座の動画鑑賞。（7／2～7）／納涼祭で、花かごワッショイ、ソーラン節等。（8／6～16）

ボランティア活動

★活動者名（敬称略、順不同）

個人　内藤きせ、大川原富美子、吉﨑伸男、殿村隆夫、内藤美奈子、中西雷太郎、井部、広瀬、小島茂美、大塚春美、尾崎淑子。

団体　岩本造園（庭木の手入れと草刈・除草剤散布）、常葉大学保育学部学生（ボランティア）。

実習生受け入れ

〈やまばと希望寮〉

浜松学院短期大学部　2名（7／5～7／17）

常葉大学　2名（8／4～8／15）

〈コスモス〉

島田市立看護専門学校　3名（7／13・14）

〈なのはな〉

島田市立看護専門学校　2名（7／14・15）

〈ワークセンターやまばと〉

清流館高校　3名（7／13・14）

〈さくら〉

清流館高校　2名（7／6・7）、1名（7／13・14）

〈あさがお〉

清流館高校　2名（7／13・14）

〈かたくりの花〉

常葉大学　1名（8／6～8／19）

寄付金状況報告

（単位：円）

	寄付金	指定寄付金	誌　代	合　計
4月～7月	5,023,901	0	826,585	5,850,486
8月	279,009	0	44,291	323,300
計	5,302,910	0	870,876	6,173,786

あとがき

☆表紙の写真は、「コミュニティセンターぶどうの木」の元ご利用者（卒業生）。九月に百歳を迎えられました。地域で、これからもお元気に過ごされるようお祈りしています。

☆ウィリアムズ・郁子さんは、日本人女性として初めて英国国教会司祭に任命された方。現在は、ご夫君の仕事の関係で、母校ICUキャンパスに住み、大学関係者をボランティア的に支援したり、2週に1回は、聖路加国際病院のチャプレンをしていらっしゃいます。

☆自粛生活二度目の秋です。太陽の光を浴びて、体内時計をリセットして乗り切りましょう。〈I〉